

進路だより

令和4年 7月20日
都立中野特別支援学校
第2号
校長 和田 慎也
担当 小田原 紀子

【専任より】

◆成年年齢引き下げに想う…

2022年4月1日より、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これによって、2022年4月1日に18歳、19歳の方は2022年4月1日に新成人となり、現高等部3年生の方は、誕生日を迎えると新成人となります。

成年年齢に達すると、未成年との時と何が変わるのか？

民法が定めている成年年齢は、「親権に服さなくなる年齢」という意味があります。つまり、自分の住む場所や、進学や就職などについて、自分の意思で決めることができるようになるということです。

障害者福祉の世界では、「愛の手帳の成人更新」にもあるように、今回の成年年齢引き下げよりもずっと以前に、18歳成人とうたわれていました。障害福祉サービスを利用するにあたり、親の希望だけでなく、御本人の意思確認を求められていたのはこのためでした。その意味では、障害者福祉という18歳成人に、民法が追い付いてきたというべきかもしれません。

成年年齢に達すると、大きく変わるものがあります。未成年には認められなかった資格や権利が得られるということ。そして、その1つが「選挙権」になります。先日の国政選挙（参議員選挙）で「『せっかくだけに選挙権だから』と、御本人と一緒に投票に行ってきた。」という御家族の話を聞きました。御本人にはよく分からなかったかもしれません。でも、一成人として向き合った御家族の話に、とても嬉しい気持ちになりました。

(田邊 大樹)

【専任より】

◆最後の夏休み！？の生かし方

夏休みはどのように過ごしますか？小学部や中学部の皆さんは、まだまだ先の話に感じますが、高等部3年生の皆さんは、卒業したら、1ヶ月以上の夏休みはもうありません。ぜひ、最後の夏休みを充実したものにしてください。そのためにも、生活のリズムが崩れないように、時間を決めて「規則正しい生活」を送るようにしましょう。

◆「自分自身でできることを増やす」ために

第1号でも記載させていただきましたが、ぜひこの夏休みにできることを増やしましょう。例えば…

①**落ち着いた生活**…一人で落ち着いた生活ができる時間を増やしましょう。特に生活介護施設や福祉就労を目指している方は、大切になります。福祉施設では、学校より狭い空間での集団生活・活動が多くなります。また、支援員の方の数も学校の教員の半分ぐらいになり、担当者も入れ替わることが多くなります。

このようなことから、一人で落ち着いた生活や活動ができること、集団の中でも安定した時間が過ごせることが大切です。「いつでも」「どこでも」「誰とでも」活動・行動ができることが目標です。夏休み中の御家庭での生活の中でも、ちょっと気にかけていただければと思います。

②**交通機関の利用**…あまり利用したことのない電車に乗る・乗り換える・混雑した電車など、普段できない体験を試みるチャンスです。都営交通無料乗車券を利用すると便利です。お持ちではない方は、お住まいの区市町村の窓口で発行できます。「都営交通無料乗車券 ○○区」と○○のところにお住まいの区を入れて検索してみてください。

(中島 祐治)

【保護者向け進路研修会の御報告】

6月に「保護者向け進路研修会」をオンラインで実施いたしました。当日、御視聴いただきました保護者の皆様、ありがとうございました。

今回は、児童・生徒の授業での使用とかぶらないように、ゲストでの参加で実施をさせていただきました。アカウントの関係での不具合等では、お手数をおかけし申し訳ございませんでした。また、ライブでの研修会のため、御視聴いただけなかった保護者の皆様も申し訳ございませんでした。動画等での配信ができるよう各区との協議を行い、多くの皆様に御覧いただけるよう改善に取り組んでいきたいと思っております。

【小学部】

小学部5・6年生は移動教室で「キッザニア」に行きました。キッザニアでは、いろいろな仕事を体験でき、「キッズ」というキッザニア内で使えるお金をお給料としてもらうことができます。子供たちは消防士や電車の運転手など、憧れのお仕事を体験しました。本物さながらの制服を着ると、子供たちの目は輝き、スタッフの話聞いて、落ち着いて活動を楽しむ姿がたくさん見られました。体験後は一人ずつ給料をもらいました。もらったお金を使ってキッザニア内の観光バスに乗ったり、銀行に口座を開いてキッズを預けたりしました。お仕事をすることで大切なことや、しっかり仕事をすると給料がもらえることなどを楽しみながら学ぶことができました。(小田原 紀子)

【中学部】

1年生の1学期の職業の授業では、職業的・社会的自立に向けて「挨拶」「身だしなみ」などの基礎的なことについて学習を進めてきました。将来自立し、社会生活を送ることができるように、生徒が中心となって挨拶の練習や身だしなみの確認についての学習に取り組んでいます。例えば挨拶の練習では、毎回の授業で意識する点を決めてから、練習を始めます。最初は、言葉を発しながら同時にお辞儀をしていた生徒も回を重ねるごとに上手な挨拶ができるようになっていきます。3学期には就業体験もあります。授業内だけではなく、日々の生活の中でも意識できるように指導を展開し、定着を図ります。

(石田 直暉)

【高等部1年】

1学期の職業の授業は、1年生の進路テーマである「知る」をテーマに学習を進めてきました。自分自身を「知る」ことはもちろん、友達、先生、仕事についても「知る」学習に取り組みました。

自己紹介の学習では友達の顔、名前、良いところを「知る」ことができました。また、自己紹介は2年生、3年生で実施するミニ実習や現場実習の面接で必ず実施することとなりますので、そこへ向けた練習にもなりました。

挨拶・報告の練習は毎回の授業で行っています。「オアシス」の挨拶では相手の目を見る、笑顔、語先後礼などのポイントを意識して練習をしています。はじめはぎこちなかった笑顔での挨拶も、最近では相手の目を見て、自然な笑顔で挨拶ができるようになってきました。製品の袋詰め、クリップ留めなどのワークトレーニングの後は「〇〇先生、できました。」と必ず報告をしています。ミニ実習や現場実習では自ら報告できることが大切となってくるため、1年生の段階からたくさん報告の練習をしています。

まだ、始まったばかりの高等部の生活ですが、2年生、3年生、そして、卒業後を見据えた学習を行ってきました。2学期も生徒たちの将来を見据えた指導を展開していく予定ですので、引き続き生徒たちへの進路指導に対する御理解・御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。(本橋 剛、江川 拓郎)

【高等部2年】

6月6日(月)からスタートした『ミニ実習』は、生徒たちにとって初めての「場所、人、仕事」といった慣れない環境ということもあり、通勤途中は仕事場に近づくにつれて、胸をたたいて落ち着かせようとしていたり、声を出して自分を励ましてみたりと、その緊張感が引率した教員にも伝わってきました。

いざ、実際に職場に入り、仕事をスタートすると、学校ではあまり見ることでできない集中力や持続力、仕事に対する意欲が感じられ、緊張を乗り越えたところに成長の鍵があると改めて思いました。そのせいでしょうか、実習を終え、学校に戻ってきた生徒たちは、皆、リリしさにあふれています。

2学期以降の現場実習に向け、今回のミニ実習でうまくいったことは自分の宝物にして、課題にはしっかりと向き合い、克服して臨んでいければと考えています。今後とも、御協力をお願い申し上げます。

(岸 真美、宗形 秀人)

【高等部3年】

5月末から始まった1学期の現場実習が終わりを迎えました。それぞれの生徒が希望した実習先で自分のたてた目標のもと実習を行いました。目標を達成できた生徒、新たな課題が見つかった生徒などさまざまだったと思います。実習後には実習先からいただいた評価をもとに、今後の方向性を確認するための面談を行っていきます。最終的な進路決定に向けて、悩まれることもあるかと思いますが、担任や進路専任と相談しながら進めていきたいと思っています。夏休みには、普段はなかなか行うことのできない家庭でのお仕事を行ったり、通所や通勤に向けて公共交通機関を利用したりするなどの経験を積み重ねていってください。保護者の皆様におかれましては、お忙しい中面接の出席や実習先への送迎、通勤練習等の御協力ありがとうございました。(森井 綾香、和泉 悠太)